

第2回海田小学校校舎建替検討部会 議事要旨

日 時：令和8年7月29日（水）15：30～16：45

場 所：海田小学校本館 1 階第2会議室

出席者：海田町教育委員会教育長、海田町教育委員会教育委員、海田小学校PTA会長、
海田西中学校PTA会長、海田小学校区地域代表、海田小学校校長、海田小学校教諭（教務主任）

事務局：海田町教育委員会事務局職員

議事要旨

（以下 ○：委員の発言、●：事務局の発言）

1 「海田小学校校舎建替基本構想素案」について

- 「校舎建替のプロセス」については、基本構想、基本計画、基本設計、実施設計と進め、建設工事を実施し、供用開始となる。

基本構想は最初の段階であり、校舎建替の基本理念や整備方針などの基本的な考え方を整理するものである。

- 「海田小学校校舎建替基本構想素案」について説明する。

基本構想素案の構成は全13項目で構成されており、海田町立学校校舎建替の基本理念、海田小学校及び海田小学校区の概要や現状、児童数・学級数の将来見通し、学校職員・保護者・児童からの意見、整備コンセプト・整備方針、事業想定スケジュールが記載されている。

- 令和6年8月に策定した海田東小学校校舎建替基本構想において、今後建替えを控えている海田小学校も含め、町立学校の校舎建替について統一感をもって進めるため、基本理念を整理した。海田小学校の校舎建替においても、この基本理念をベースに建替計画の具体化を図る。

「つくる」、「つづく」、「つながる」の3つをキーワードとした基本理念としている。

基本理念のキーワードとなる考え方について、「子供たちにとって、魅力的で居心地の良い空間を創り、こうした空間で学校生活を過ごす中で、子供たちがいきいきと楽しく学ぶことを通じて「明日また行きたい学校」と思える学び舎としていく。また、「地域の人も集う場として、これまで地域と共に育んできた学校の伝統や歴史を継承しつつ、これからも「地域と共に育つ学校」として、将来にわたって地域の誇りを育む「地域の宝」となるような学び舎としていく。」とまとめている。

- 次に、「海田小学校の概要等」について説明する。

海田小学校の敷地内にある建物の概要やその位置図を示す。

- 次に、「海田小学校本館の現状と課題等」について説明する。

令和 4 年度に実施した本館の老朽化詳細調査の結果を踏まえた方向性について記載している。まとめとして、将来にわたって長く使用を考える場合は、長寿命化改良工事よりも建替えの方が効率的であると判断された。

- 補足で説明する。老朽化詳細調査の結果から、4,500 点が基準値で、4,368 点であった。本館はコンクリート劣化等が進行しており、建替えが必要であると判断された。本館は 2 期にわたって建設されており、築 40 年と築 41 年部分の 2 つの棟が合わさっている。

- 次に、「海田小学校本館以外の学校施設等の現状と課題等」について説明する。

海田小学校敷地内にある本館以外の施設である特別教室棟、南校舎、給食室、クラブハウス、社会体育倉庫、児童クラブハウス、体育館、プール及び消防庫・備蓄倉庫の現状と課題等について、例えば特別教室棟では、普通教室からの動線が長く、教室間の移動に課題があることや教職員を対象としたアンケート調査において、「普通教室と特別教室が物理的に分断されており、教育活動を柔軟に展開する上での支障となっている。校舎を建て替えるにあたっては普通教室と特別教室を一体的に利用できる教室配置としてほしい」という意見が寄せられた。

特別教室棟以外についても、教育活動上の支障がある施設や、老朽化が進んでいる施設などがある。

- 次に、「基本構想策定の前提条件」について説明する。

海田町の概要や海田地区の現状と課題について記載しており、こうした課題を踏まえたまちづくりの方向性について、次の海田小学校周辺のまちづくりの方向性について記載している。

- 次に、「令和 8 年度海田小学校学校経営計画等」について説明する。

ここでは、海田小学校の目指す学校像や教育活動の目標などを示す学校経営計画の最新版が示すとともに、学校の強み・特長を示している。

一つめは、学年や全校児童による合唱・合奏を保護者や地域住民に披露する「ドミソ発表会」では、子供たちが練習を通じて、大きな集団の中で感性を磨き、互いに協力し合いながら、参加する一人一人の心に響くステージを創り上げようとする姿がみられるなど、経営理念「心と心が響き合う学校」に沿った、活気ある教育活動を展開している。

二つめは、海田小学校は、日本人初の金メダリストである織田幹雄氏の出身校であり、学区は瀬野川、日の浦山等の自然に恵まれ、西国街道の宿場町の古い町並みや旧千葉家住宅といった伝統的建造物が残っている。また、海田町の中心拠点内にあり、海田町役場や海田税務署といった官公庁や商業店舗が集積するなど、地域資源が豊富である。授業では、これらの地域資源を、子供たちが考えたイベントや、町探検で活用するなど、実社会との関わりを通じた教育活動を展開していることを記載している。

- 次に、「海田小学校の児童数・学級数の将来見通しについて」説明する。

令和22年度までは増減があるものの、令和27年度以降は減少する見込みであるが、学級数の将来見通しの表のとおり、今後も通常学級12、特別支援学級3から4の合計15から16学級が続く見通しである。

- 学級数は学校の規模を決める肝になってくる。今年度の通常学級は13学級であり、4年生が1学年3学級になった。今年度の4年生は5人入り、72名で3学級であるが、将来見通しは12学級で見込んでいる。

- 次に、「学校職員、保護者等からの校舎建替に係る意見」について、3月に実施したアンケート調査の結果や、学校関係者からのヒアリングにおいていただいた意見をまとめている。

- 次に、「児童からの校舎建替に係る意見」について説明する。

まず、海田小学校校舎建替についての意見書について記載している。

これは、令和8年1月に開催された「こども議会」で海田小学校代表のこども議員から、各学年で校舎建替に関する考えをまとめた意見書を提出したい旨の要望があり、令和8年3月17日、児童代表から町長に意見書が手交されたもので、そこに記載された主な意見を学年ごとにまとめて記載している。

3月に町長が海田小学校を訪問し、児童代表とランチミーティングを通じて、新校舎に盛り込みたい機能や設備等について意見交換を行った際に、児童たちから出たアイデアなどもまとめて記載している。

- 次に、「海田小学校校舎建替に係る整備コンセプト・整備方針」について説明する。

整備コンセプト、「海田小学校の強み・特長や、海田地区の将来像を踏まえた学び舎づくり」としている。

整備方針について、建替対象施設は現在、検討中である。校舎建替検討部会の皆様のご意見も踏まえながら、方針案を検討したいと考えている。今後、方針案が決定次第、皆様へご説明させていただく。

整備方針は3本の太柱として、①心と心が響き合う活気ある学び舎づくり、②伝統や文化が息づく学び舎づくり、③地域と共に未来を築く学び舎づくりとしており、さらに、中柱、小柱で整備内容等を記載している。中でも、整備コンセプトや児童や保護者、学校職員等からの意見を踏まえ、特に注力する項目を重点項目として位置付けている。

「児童の表現力を育む空間の整備」については、イメージ例として、学年や全校児童による合唱・合奏を保護者や地域住民に披露する「ドミソ発表会」等の表現活動を行える空間や環境を整備することなどを挙げている。

「多目的空間・児童クラブとつながる学校図書館（読書・学習・情報センター）の整備」については、イメージ例として、多目的な空間と一体的に使える学校図書館を全学年の児童がアクセスしやすい場所に配置し、館内に児童がリラックスして読書を

楽しむスペースを整えるなど、児童の学びの拠点として学年を超えて様々な児童が集い、学び合う交流の場を、児童クラブからもアクセスしやすい場所に整備することを挙げている。

「地域と共に育んできた学校の伝統や歴史を継承」については、イメージ例として、地域クラブや地域住民の活動の場所である生涯学習施設と学校が活発に相互交流できる空間を整備することなどを挙げている。整備に当たっては、一つ目の重点項目である「児童の表現力を育む空間」と一体的利用が可能となるような設えとし、学校エリアと地域エリアを適切にゾーニングすることなどを挙げている。

「シビックプライド〔まちへの誇りと愛着〕を育む施設整備」については、イメージ例として、海田町内における近年の公共建築物や旧千葉家住宅等の歴史的建築物との統一感をもたせつつ、地域景観との調和を踏まえた施設外観とし、シビックプライド〔まちへの誇りと愛着〕を育むよう、海田らしさを随所に感じられる施設整備を目指していく。

これらの整備方針についても、海田小学校の校舎建替としての特色が出るように修正していきたいと考えており、本日いただくご意見も踏まえて修正し、最終案に反映したいと思うのでよろしくお願いしたい。

- 最後に、「想定スケジュール」を示す。令和13年4月の新校舎の供用開始を目指し、今後必要なプロセスを踏んでいきたい。
- 学校は学ぶところだけではなく、そこで住まう、憩う場所になっていく。学びが地域とのかかわりの中で進められており、地域住民の学びの場でもあるとともに、子供と共に学ぶ場である。学校図書館についても、子供と教師の利用が本来だが、地域の人を使うことで賑わいのある学校図書館を作り出せる。ただ、見知らぬ人が来るわけなく、地域の顔見知りの人たちが学校という場を共有するというコンセプトが必要である。
- 熊本地震のように、小学校が避難場所になることもある。セキュリティ面で過度に制限すると何もできなくなるため、顔見知りの地域の人があることで、子供たちが地域の人の顔を見ることができ、地域の人の子供たちを育てることが必要性である。

また、先人を敬うという意味で、織田さんや三村さんなど、子供たちが「自分達もこうなりたい」という憧れを作るきっかけとなるものを整備していくことが必要である。
- 日本人初の金メダリスト織田幹雄の出身校という言葉は、この学校にしか使えない言葉である。金メダリストはたくさんいるが、「日本人初」というのはここしかない。この点をもっと大事にすべきと思う。子供たちの中に織田幹雄という認識がなく、関連した学びの場がないため、ここしかできないこととして大事にしたい。2年後が金メダル取得から100周年である。学校の特色として「ドミソ発表会」のような芸術

とスポーツの2つの特長を出していくことができる。

西国街道も魅力を出していくべきと思う。瀬野川、2号線、バイパスなど、過去からの流れがあり、位置的にも非常に特色があるため、今後5、6年の間に土台を作っていきたい。

- 学年で取り組むことが非常に多く、一つの教室に集まると狭いという課題がある。学年みんなでさっと集まって何か活動ができる場を作ってもらいたい。現在の学習形態に対応した空間づくりが必要であり、声に出すような表現力だけでなく、図工のような作品作りをみんなで展示したりできるスペースになる空間を作してほしい。
- 保護者のアンケートで防災性・防犯性など、安全・安心な教育環境の確保が74.6%であった。全国で不審者が入って無差別に殺人される事件も起こっており、現在の海田小学校も誰でも入れるような状況がある。そうは言っても顔認証システムを導入すると来校しにくくなるため、セキュリティ面に配慮しながら、適切に対応してもらいたい。
- 運動会について、年々暑くなっているため、現在と同じく5月くらいしか開催できない状況にある。熱中症対策として、グラウンドの敷地内でも活動できるような設備を整えてもらいたい。今後20～30年で更に暑くなることが予想されるため、適切に対応してほしい。
- 保護者の意見では防犯・防災が重視の要望が多い。無機質な建物でもいいので、頑丈な建物にしてほしい。で織田幹雄さんが飛んだ距離や足跡を廊下につけるという6年生の意見があるが、廊下で走り幅跳びができるくらいの長い廊下を作るのも面白い。呉市にあるような円柱形の建物を作るなど、話題作りにもなる。
熊本地震もあったので、保護者としては子供を預けているときに頑丈な建物で、津波が来ても大丈夫な安心できる施設であってほしい。
- 不審者対応について、自身の体験から過去に不審者が学校に入ってきたことがあり、その時に学校の門を閉めるという対応がなされた。現在も児童クラブ等でも不審者対応訓練を定期的に行っている現状はあるが、本来は地域の人に入ってもらおうというのが理想ではある。地域の人が入った方が子供たちの成長にはいいと思うが、本当に大丈夫なのかという危惧がある。
- 児童クラブで図書館が使えるというのは素晴らしい。図書室の位置は、どこの学校も端っこにあるため行きにくい。真ん中辺にあったら行きやすい。朝学校に着いて、門を入れて、教室に行く途中に図書室があったら素晴らしい。図書室は、静かにしましょう、黙っていきましょうというだけでなく、皆で絵本を寝転んで読むなど、子供が使いやすいような、今までの図書室とは違ったような部屋があるといい。広島市立中央図書館は子供が使いやすいような工夫がされている。
- クラブハウスを毎週のように使用させていただいており、100歳体操やいきいきサロンなど、地域の人が学校敷地内で活動している状況が昭和の中頃では当たり前にな

っている。子供たちが大休憩中に声をかけてくれたり、地域の人と子供たちの交流がある。建替え後も、クラブハウスのように自由に使える部屋が残ることを望む。クラブハウスについては、過去に倉庫にされそうになったが、地域の要望で町長に直談判し残してもらった経緯がある。児童館までは行きにくく、手押し車で歩いて来られる高齢者もいるため、門から近い場所へ使える部屋を残してほしい。

- 西国街道について、DVD を見て改めて素晴らしさを認識した。こういった歴史を子供たちがすぐに見たり、感じられたりするような学校にしてもらいたい。高齢者でも知らないようなことがたくさんある。郷土への誇りにもなる。
- たくさん意見をいただいたが、防犯・防災がポイントになってきている。不特定多数の人が入る施設ではいけないので、セキュリティ面はしっかりしていきたい。
- 児童からの要望で防災倉庫を使いやすくしてほしいとあるが、児童が言う防災倉庫と、消防庫・備蓄倉庫は同じものか。
- 直接聞いたわけではないが、今後は校舎自体が大規模災害時に避難所になるため、校舎の中に備蓄倉庫をしっかり設けて、避難を誘導する人間が取りに行き、避難された人に配れるような室内にもしていきたいと考えている。
- 保護者説明会の対象はどこまでか。現在幼稚園、保育所に通っている子供たちの保護者に説明やアピールをした方がいいのではないか。
- 海田東小学校の校舎説明会の参加者は、1 年生 2 年生のお子様をお持ちの方が多かった。取り組みとして町内の園所にチラシを配付して貼り出してもらい、参加していただくように声かけしてもらってはいるが、参加者は少なかった。なかなか現実感がないのかもしれない。
- 長子の方が小学校に入学していないと、学校というイメージが、自分が育った学校しかない。それをどういうふうに作られても、多分イメージが沸かない。1 年生なら入っているから、在学中にどう変わっていくのかが分かる。高学年だったら、自分たちはこうあったらよかったという意見の方が実質的である。
- ご意見いただいて、町内の園所にはご案内を差し上げようと思う。
- 次回については、基本構想の最終案について説明予定である。日程については、各種会議の進捗について変わってくる可能性があるので改めて連絡させていただく。